

# 進路ニュース **みらい** 26号

広島市立広島養護学校 進路指導部 広報係

## 第11回同窓会総会

あいにくの雨模様のなか、「みんな来てくれるかな?」と役員一同心配していましたが、開始時間が迫るにつれて、なつかしい顔がぞくぞくとやって来てくれ、役員もホッと胸をなで下ろしました。

会場のあちこちで屋根をたたく雨音にも負けない笑い声や話し声が聞かれる中、同窓会総会が始まりました。

役員改選や規約の改正など総会をとどこおりなく終え、いよいよレクリエーションタイム。在学中にしたことのある綱引きや玉入れ、文化祭で踊った恐竜サンバなどで盛り上がりました。会長ふんする恐竜君も登場し、みんな大喜び!

最後はなんと初めて校歌を歌い、12月の再会を約束してみんな家路につきました。参加していただいた先生方、ありがとうございました。



総会に向けて準備をして下さった役員さんたちです。

## 高等部2年生 職場体験実習へ向けて

本校高等部では、進路指導の一環として2年生で職場体験実習を実施してきました。具体的な体験を通して将来の進路や社会生活について考える機会となるよう、取組を進めてきました。

1年次には、「自分を知る」をテーマに、進路学習や職場見学、校内実習などの取組を行ってきました。その成果や課題をふまえ2年生では、「社会へチャレンジ」をテーマに進路学習や、職場見学、職場体験実習などの取組を行います。その取組の一つとして9月から職場体験実習が始まります。

生徒は、スーパーマーケットやクリーニング、授産施設やデイサービスなど今まで経験したことのない、学校とはまったく違う場所で2~5日間実習を行います。生徒によっては1日中立って仕事をしたり、重たい物を運んだりする仕事、反対に1日中座って手先の細かい仕事をする生徒もいます。今までとは違う環境で新しい仲間と活動することに不安を感じている生徒もいると思います。この体験を通して、学校と社会の違いをしっかりと感じとって欲しいと願っています。そして、実習をやり遂げたことの自信がきっと次への

一步になるでしょう。

これまで、実習先を決定して行くにあたり、進路希望調査を基に家庭訪問や電話連絡で本人・保護者の願いや担任としての考えなど考慮しながら、職場訪問や電話連絡等で職場開拓を進めてきました。その結果、ほぼ希望に添った実習場所の確保ができました。これから、夏期休業中に実習の打ち合わせ訪問や、実習に向けての通勤や通所の練習など9月からの実習へ向けて取り組んでいきます。その中で、働いたり、活動したり具体的な体験をすることを通して、社会で自分の力を試みます。生徒自ら体験し自己評価をし、保護者・担任もその様子を見て生徒の適性や可能性を考える機会とします。これから夏期休業へ入りますが、生活のリズムを崩さないよう健康には充分留意されることを願っています。

## 高等部3年生進路の取組～1学期を振り返って～

今年度は障害者自立支援法施行元年ということで、行政の障害福祉課はもちろん、施設、作業所、デイサービスと密な連携をとり、新体系への移行に向けて様々な動向や状況について、これまで以上の情報収集をしながらの進路決定への取組となりました。これまでの取組について課題をふまえてそれぞれの進路先についてまとめてみました。

施設（授産施設・更生施設） 4月に、ほとんどの施設が補助金の日割り計算のあおりを受け定員緩和の措置をとり、一気に空きが生じるようになってきました。そのことにより、利用者には応益負担で割の利用率負担も導入されたのにも関わらず、施設通所への希望者が増えました。また施設としても利用者の確保に向けて来年度新卒者の希望者数の把握を急がれたこともあって、今年度は早い段階で第1希望を伝えて来年度の受け入れをお願いしていくことになり、一学期に行った7箇所18名の実習のうち、施設が6箇所16名を占めました。しかし希望者が多く、各施設としても来年4月まで枠をたくさんあけて待つことは運営上難しく、希望者全員を来年度に受け入れてもらえるかどうか現在のところ分かりません。

小規模作業所 第一希望者の実習を7月までに(夏休みを含む)5箇所6名が行います。小規模作業所の多くも自立支援法によりNPOなどの法人格を目指して新体系への移行にむけての準備が進んでいます。

デイサービス 10月の移行に向けて現在準備が進められていますが、自立支援法により今年度最も大きく体系が変化するにもかかわらず、依然としてはっきりした情報が得られず、希望者の方には不安な思いをさせていますが、実習は新体系に移行する10月以降となります。情報収集に全力をあげて早めにその情報をお伝えして行きたいと考えています。

一般就労 企業実習は夏休みから5箇所5名の実習が始まります。自立支援法の影響は直接受けませんが、障害者雇用は相変わらず厳しい社会情勢でハローワークや職業センターなどの関係諸機関と連携しながら進めています。

このように自立支援法により、新体系への移行による施設の再編で、求められる利用者像の変化や、施設・作業所の空き状況の変動、利用料負担、給食費や送迎費の実費負担等を、進路決定に向けて本人の適性だけでなく無視できない大きな要素として考えていくことが必要になってきました。今後も、関係機関と密接な連携をとり絶えず新しい情報をキャッチしながら保護者の方と密な連絡をとりあって、よりよい進路決定に向けての取組を続けていきたいと考えています。

## 『しんろコラム』NO.1

### ～進路は続くよ、どこまでも！～

#### 「働き続けるって何だろう」

先日の同窓会で第1期生の卒業生のN君が自分の鞆から出した賞状を見せてくれました。それは勤続10年の地元の商工会からの表彰状でした。高等部開設時の第1回卒業生は、今年で卒業後の11年目を迎えています。ひとつのところでがんばり続けている卒業生はN君だけではありませんが、地域で働く10年勤続の労働者として、障害の有無に関わらず、同じように社会的な場で価値を認められることは、最近では少なくなっているように思います。長く続けるために「辛抱強く・こつこつと・がんばり続ける」ことの価値観は、時代の反映か、余り尊重されていない気がする昨今です。

振り返ると就職をしたときのN君は、正直、精神的には弱々しかったので、ここまで働き続けることが出来たのは職場で支えになってくれていた社長の奥さんの存在があります。卒業してからも心配なことやちょっとした事件があると電話で知らせてくれました。そのたびごとに職場の内・外、問わず、本人と話したり、職場の中での解決方法を一緒に考えたりしてくれました。就職に限らず施設や作業所でも、一つの場所で続けたり、困難なことを乗り越えたりできる秘訣は、このように支えてくれる人が存在するかどうかで大きく左右します。

今年度も進路ガイダンスが、保護者の皆様のお手元に届いたと思います。その中で過去の卒業生の10年間の動向が色々な角度から分析されています。10年の経過の中で以外と途中で辞めていたり、辞めさせられたりする人が少ないことが分かりました。障害者の自立を考えると、健常の人より仕事や働くことを大切にしているようにも見えます。それは、続ける中で働くことに自信を付ける人が多いのではないかと思います。しかし、この自信も、周囲の人たちの励ましや評価が支えとなって、つけられるものです。このような豊かな人間関係を築くことができる環境が、働き続ける意欲の元になっているのかもしれない。

《草羽》